

# 「ジェイコムさいたま」菊池孝太郎新社長が抱負 地域プロデューサーを核に 地域を耕す

「超どローカル」で「住民の方々と近いテレビ」



さいたま市浦和区の本社を拠点に同市をはじめ埼玉県各地をエリアにケーブルテレビを運営するジェイコムさいたまの新社長に菊池孝太郎氏が決まった。多忙な時間を割いて私たちのインタビューに答えた菊池社長は、「超どローカル路線の推進に力を込め、昨年、設置された地域プロデューサーを軸に地域を耕し、地域コンテンツをより密度濃く番組に反映させる方針を強調した。」(石森麻紀、堀越宗洋、田之倉聖)

ケーブルテレビを通しての地域コンテンツ発信体制に関する積極的な取り組みについてお聞きください。

菊池社長 コミュニティチャンネルには二つの柱(超どローカルのジェイコムチャンネルと、札幌から熊本まで各地域情報を全国発信する「Jテレ」)があります。この中で、ジェイコムさいたまでは、超どローカルな地域コンテンツの取材放送に力を注いでいます。これからはますます充実させていくのが地域プロデューサーの活動です。

地域プロデューサーとは？

菊池社長 各地域には例えば商工会議所、観光協会、組合など様々な組織があります。そのように地域をまとめている組織からいろいろなローカル情報を集めて地域コンテンツを取材発信する中心として地域プロデューサーを位置付けています。

「超どローカル」と聞くと、例えば、地域のお祭りを連想しますが……

菊池社長 お祭りはもちろんですが、それ以外にも地域のスポーツ大会なども生放送したりします。私たちが「自分(視聴者)が映っている地域のテレビ局」を目指し、できるだけ多くの住民の方にテレビに映っていたりすることを心掛けています。

例えば、どのような番組組ですか。

菊池社長 「わくわく一年生」という番組があります。小学校の一年生を全員撮影し、24分番組の中で将来の夢を一人一人話してもらった企画です。できれば一年生が13年後に成人した時に成人式にこの映像を流せたらいいなと。もし13年後もジェイコムの番組組

りを見ていただいていたならその動画をDVDにして、御自宅にお届けしたいという夢があります。「住民の方々のテレビ局」がモットーです。

HPで「埼玉自転車王国」シリーズレギュラー放送開始！をアピールされています。

菊池社長 埼玉県は自転車王国の保有台数が全国一位を誇り、レースの模様を生放送で流します。

「超どローカル」と聞くと、例えば、地域のお祭りを連想しますが……

菊池社長 お祭りはもちろんですが、それ以外にも地域のスポーツ大会なども生放送したりします。私たちが「自分(視聴者)が映っている地域のテレビ局」を目指し、できるだけ多くの住民の方にテレビに映っていたりすることを心掛けています。

# 十文字のダンス部がフェスタで発信 大宮発の「地方創生」を全国に伝える



十文字学園女子大学ダンス部員のステージ。円内は挨拶する岡本英之同大学本部長特別補佐

## 彩の国メディア「御四家」も応援

発足20周年を機に全国大会を誘致し、新幹線の結節点である大宮発の「地域創生」を全国津々浦々にアピールする意気込みを進められた。この日、ソニックシティで開催された「ふれあいフェスタ2016」(異業種交流会、彩来会さいま)の記念行事(望月邦彦実行委員長)の野外ステージは、全国から集まった異業種交流会29団体のメンバーやさいたま市民の熱い視線を浴びた。数々の地域発信プログラムが企画され、新座キャンパスで、この日のために練習を重ねてきた本学ダンス部員10人もさいたま市のイメージアップに一役買った。

この日のイベントは、全国の異業種交流会でも屈指の規模(71社加盟)と活動実績を誇る彩来会が

足20周年を機に全国大会を誘致し、新幹線の結節点である大宮発の「地域創生」を全国津々浦々にアピールする意気込みを進められた。この日、ソニックシティで開催された「ふれあいフェスタ2016」(異業種交流会、彩来会さいま)の記念行事(望月邦彦実行委員長)の野外ステージは、全国から集まった異業種交流会29団体のメンバーやさいたま市民の熱い視線を浴びた。数々の地域発信プログラムが企画され、新座キャンパスで、この日のために練習を重ねてきた本学ダンス部員10人もさいたま市のイメージアップに一役買った。

清水さいたま市長もおもてなし 室内会場の展示ブース 望月邦彦実行委員長が挨拶(写真撮影:大武祐明)

## 自転車王国の国際レース生放送



© Saitama city/Y.Sunada

菊池社長 お祭りはもちろんですが、それ以外にも地域のスポーツ大会なども生放送したりします。私たちが「自分(視聴者)が映っている地域のテレビ局」を目指し、できるだけ多くの住民の方にテレビに映っていたりすることを心掛けています。

例えば、どのような番組組ですか。

菊池社長 「わくわく一年生」という番組があります。小学校の一年生を全員撮影し、24分番組の中で将来の夢を一人一人話してもらった企画です。できれば一年生が13年後に成人した時に成人式にこの映像を流せたらいいなと。もし13年後もジェイコムの番組組

りを見ていただいていたならその動画をDVDにして、御自宅にお届けしたいという夢があります。「住民の方々のテレビ局」がモットーです。

HPで「埼玉自転車王国」シリーズレギュラー放送開始！をアピールされています。

菊池社長 埼玉県は自転車王国の保有台数が全国一位を誇り、レースの模様を生放送で流します。

「超どローカル」と聞くと、例えば、地域のお祭りを連想しますが……

菊池社長 お祭りはもちろんですが、それ以外にも地域のスポーツ大会なども生放送したりします。私たちが「自分(視聴者)が映っている地域のテレビ局」を目指し、できるだけ多くの住民の方にテレビに映っていたりすることを心掛けています。

「超どローカル」と聞くと、例えば、地域のお祭りを連想しますが……

菊池社長 お祭りはもちろんですが、それ以外にも地域のスポーツ大会なども生放送したりします。私たちが「自分(視聴者)が映っている地域のテレビ局」を目指し、できるだけ多くの住民の方にテレビに映っていたりすることを心掛けています。

「超どローカル」と聞くと、例えば、地域のお祭りを連想しますが……

## 埼玉県東部地域待望の開局 市民目線の地域情報にこだわる

エフエムこしがや 86.8MHz

今年3月27日、埼玉県内初のコミュニティFM局として6番目となる「エフエムこしがや」(周波数86.8MHz、出力20W、本社・越谷市登戸町)が開局した。県東部地区では初めてのコミュニティFM局で、越谷市をはじめ周辺市町の住民には待望の開局。

越谷市は都内にも近く住宅都市として発展、人口約33万人を擁する埼玉県東部地域を代表する都市だ。「わがまちに地域情報を提供する環境」と越谷さんら市民が活動を始めたのは2009年末。多くの市民の力を結集し、12年3月に「株式会社エフエムこしがや」を設立した。

資金集めや事業計画作成、総務省との折衝など準備すること4年。市民の思いが結実し、今年3月の開局にこぎつけた。

越谷さんはコミュニティFMにこだわる理由を次のように話す。「情報を手に入れる手段はいろいろありますが、お年寄りから子供、障害者の方、パソコンが苦手な方が簡単に情報を手に入れるには、ラジオが一番いいと考えました。そして、災害時は電池さえあれば情報の受け取ることができ、市民目線の考えを強調した。

ただ、スタッフは手弁当の市民だけ。経営的にも厳しい。それでも越谷さんは「できるだけ皆さんの意見を反映させて番組を作りたい。必ず市民の方々に支持してもらえたい」と前向きだ。

越谷さんは「開局までの道のりが、わがFM局の宝」といふ。地域の協力と力が結集したからこその思いがあるから。今年1月の試験放送を聞きながら涙があふれ、いらんなら顔が思い浮かんだという。

そうしたい思いを胸に越谷さんは「エフエムこしがやの生命線は、地域の情報と市民の力です」と言い切る。「地元情報をダイレクトに流したい。多くの人に聴いてもらえたい。そんな思いを込めて、柔らかい表情から固い決意を読み取る事ができた。渡辺真希、高橋美佐、藤原果、リウシキョウ

### 母校 発信力

久喜高等学校 校歌  
作詞：西角井正慶 作曲：下総統一

- 武蔵野の原ひんがしの  
大地にそびえ輝ける  
名に負ふ久喜の学び舎に  
わかき吾らは集ふなり  
ああうらはしき若き日を
- 川筋いつく大利根の  
遠き古代を残したる  
沃土ひらけて久喜の里  
心ひろらに学ぶなり  
ああ清らけし若き日を
- 広野をわり吹く風に  
希望のつばひ花開き  
新しき世の若人と  
胸高らかに集立つなり  
ああなつかしき若き日を

埼玉県立久喜高等学校

久喜市本町 3-12-1

## 伝統引き継ぐ音楽部 後輩の姿に母校の誇り

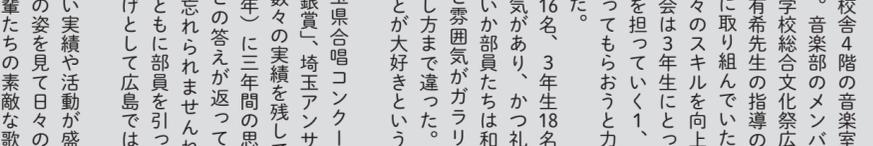
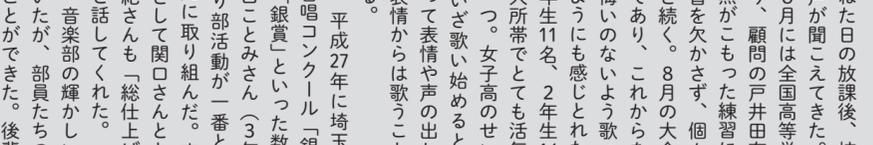
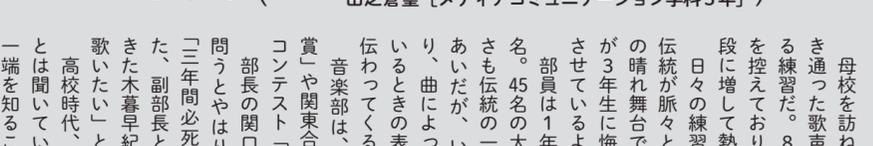
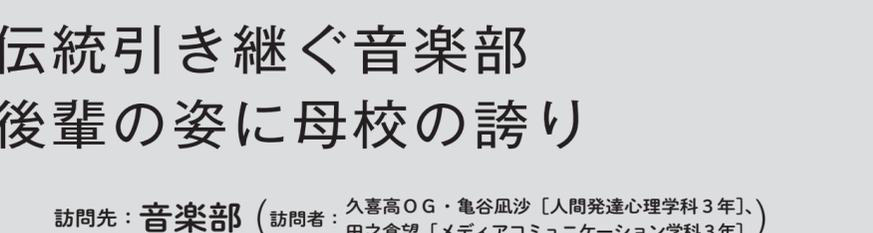
訪問先：音楽部 (訪問者：久喜OG・亀谷風沙 [人間発達心理学科3年]、田之倉聖 [メディアコミュニケーション学科3年])

母校を訪ねた日の放課後、校舎4階の音楽室から透き通った歌声が聞こえてきた。音楽部のメンバーによる練習だ。8月には全国高等学校総合文化祭広島大会を控えており、顧問の戸井田有希先生の指導の下、普段に増して熱がこもった練習に取り組んでいた。

日々の練習を欠かさず、個々のスキルを向上させる伝統が脈々と続く。8月の大会は3年生にとって最後の晴れ舞台であり、これらを担っていく1、2年生が3年生に悔いのないよう歌ってもらおうと力を結集させているようにも感じられた。

部員は1年生11名、2年生16名、3年生18名の計45名。45名の大部分でとても活気があり、かつ礼儀正しさも伝統の一つ。女子高のせいかわりには和気あいあいだが、いざ歌い始めると雰囲気ガラリと変わり、曲によって表情や声の出し方まで違っていた。歌っているときの表情からは歌うことが大好きということも伝わってくる。

音楽部は、平成27年に埼玉県合唱コンクール「金賞」や関東合唱コンクール「銀賞」、埼玉アンサンブルコンテスト「銀賞」といった数々の実績を残している。部長の関口とみさん(3年)に三年間の思い出を問うとやはり部活動が一番との答えが返ってきた。「二年間は死に取組んだ。忘れられませぬね。また、副部長として関口さんとともに部員を引っ張ってきた木暮早紀さんも「総仕上げとして広島では精一杯歌いたい」と話してくれた。



息の合った練習 後輩たちに話を聞いた